

5-11

ショートステイ時閉鎖がもたらした副産物

専用フロアを持つ施設の課題

SS専用フロア

特養とSSの協働

特別養護老人ホーム 博水の郷

発表者：生活相談員 納見 哲也	共同研究者：矢野 弘枝
所在地：世田谷区鎌田3-16-6	共同研究者：片桐 恵子
TEL：03-5717-3472	E-mail：short@hakusuihosato.or.jp
FAX：03-5717-3473	URL：http://www.oomishima.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	世田谷区に17ある特別養護老人ホームの中で、唯一、ショートステイ（以下SS）専用フロアを持った施設。専用フロアの利用だけでなく、特養空床利用も実施。他にデイサービス・居宅介護支援事業所を併設。
----------------------------	--

〈取り組んだ課題〉 ① SS専用フロアの為、特養空床利用の際にSS専任職員の専門性を生かすことが出来ないもどかしさがあった。 ② 毎日のように入れ替わる利用者への対応や事故への不安から、SSフロアへの異動を敬遠する傾向があった。 ③ 特養職員とSS専任職員との間の情報交換の場が少なかった。 ④ 記録物に関して、特養とSSとで統一されていなかった。 ⑤ SSでは医療処置（胃ろう・尿管カテーテル等）が必要な利用者の受け入れが難しかった。 〈具体的な取り組み〉 （番号は上記課題に対応） ① 特養空床利用の際、SS専任職員が同席した。また、SS受け入れマニュアルを作成した。 ②③ SS時閉鎖により特養とSSの職員が同じフロアで働いて、お互いにコミュニケーションの充実を図った。 ④ 排泄チェック表、食事摂取表を統一。また、記録についてのマニュアルを作成した。 ⑤ 特養の胃ろうや尿管カテーテルの利用者を介護することによって経験を積んだ。	〈活動の成果と評価〉 （番号は左記課題に対応） ① 特養空床利用受け入れの際、マニュアルをもとに、以前よりも職員の不安が少なく、スムーズに行えるようになった。 ②③ 特養とSSの異動が以前よりも抵抗なく行われるようになった。そして職員同士のコミュニケーションやレベルアップにも繋がっている。 ④ 排泄チェック表、食事摂取表を統一したことにより、特養空床利用の際にスムーズに記録が行えるようになった。 ⑤ 特養において医療処置利用者を介護した経験により、SSフロアでの受け入れも以前より抵抗なく行えるようになった。 〈今後の課題〉 ・特養で緊急にSSを受け入れする際、特養とSS職員との情報交換・連携がまだ上手く機能していない面がある。 ・ケース記録に関しては、まだ統一されていない面もあるので、現場の意見を聞きながら統一していく必要がある。 〈参考資料など〉 「ショートステイから見える在宅福祉・介護保険の今」 （ショートステイに関する現状調査 報告書） 発行：社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
---	---

【メモ欄】